

一人一人にタブレット端末が配られ、使い方を学ぶ生徒ら＝27日、山添村大西の村立山添中学校



1人1台タブレット

山添中が貸し出し

授業や自宅学習に活用

山添村立山添中学校(藤原克章校長、72人)は27日、生徒の情報活用能力を育てようと1人に1台タブレット端末を貸し出した。端末は持ち帰りも可能で授業や自宅での学習に活用する。

国は、昨年12月に閣議決定した令和元年度補正予算案に児童生徒向けの1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に

整備するための予算を盛り込んだ。同村は先駆けて取り組んでおり、公立学校で1人1台端末を配布しているのは全国でも珍しいという。

端末は校内の無線LANに接続し、授業の内容をノートアプリに書き込んだり、調べ学習に活用したりする。データはクラウド上に保存され、過去の復習も

できる。

導入にあたっては社会に迷惑をかける行為、課金の伴うサービスの利用を禁止するなど一定のルールを定めた。より実社会に近い形で情報マナーを身に付けるため、サイト閲覧には規制をかけず、一方で閲覧履歴は消せないようにした。

この日は端末の貸与式があり、1、2年生44人に端末が配られた。同村教育委員会会の西久保良隆教育長は「情報収集能力や正しく情報を判断する力を身に付けてほしい」と導入の意義を

説明。導入の助言にあたった奈良教育大学の竹中章勝講師(情報・教育学)は生徒にノートアプリの使い方を紹介した。

2年、北村啓さん(14)は「これ一つで文字の字体や太さ、色を変えられ、筆箱がいらなくなりそう。分からないことを積極的に調べて成績を伸ばしたい」と話した。

同村教育委員会は順次、児童生徒に端末を貸与する計画で、令和2年度は新中学1年生と小学5、6年生に端末を配布する予定。